

## 中学生の部

### 最優秀賞

神奈川県知事賞

#### 福祉ときょうだい児

慶應義塾普通部

三年 望月 颯 人

福祉ってなんだろう。

高齢者や、障がい者、通常の生活をしていくのが困難な人のために、皆で助け合って、補完し合い、誰もが人間らしく暮らせることであると私は考えます。

私の弟は重度知的障がい者で、特別支援学校の小学部五年生です。

学校ではその児童個人に合わせた教育が行われていて、弟がとても大切にされている、と授業参観に行った時に感じました。

弟は発語がなく意思疎通が難しく、また、おむつを着けて生活しています。私たち家族は、

弟の快、不快を表情や声から読み取ります。笑顔は快、かんしゃくは不快、などです。

そのため我が家の日常生活は弟中心となります。大きな赤ちゃんと生活していると伝えれば伝わりやすいでしょうか。

弟は自由に動きまわれますので、家の中で思いもよらないイタズラをし、両親や私を困らせます。叱つても注意しても、聞き入れ、理解することが出来ません。

健常な赤ちゃんはいずれ成長し、大人になります。しかし、残念ながら弟の障がいは治りません。

私たち家族の困りごとはこれからも続きます。

私のような立場を「きょうだい児」ということを知ったのは小学生の終わりごろです。

その頃は、弟はまだ小さく、イタズラやかんしゃくも私たち家族が止めたり、時には力づくで押さえついたり出来ていたので、将来のことが想像つかなかったのです。

しかしながら弟は、今後出来ることは殆ど増えないと予想されるにも関わらず、身体だけは成長していきます。

最近他害も出始めた、弟が利用している放課後等デイサービスの先生から伝えられており、私は、両親は、今後一体どうなるんだろう。私たち家族は人間らしく暮らしていけるのか、とつい悩んでしまいます。

弟はもちろん障がいの当事者であり、生きづらいことに間違いはありません。

なので、人間らしく、尊厳を守られる生活のできるサポートを受けなくてはなりません。

そのコントロールを担うのは今は両親、両親が出来なくなったら私ということになります。

私は今となっては「きょうだい児」として今後の人生を送ることに不安を感じています。

自分の心を守りながら、人間らしく生きていけるのかどうか、悩まずにはいられない自分を、正直に言っただう受け止めていいか分かりません。

両親も、自分たちの子とはいえ、障がいは想定外だったはずです。

父と母ともに、今後もずっと続く弟への対応のかたわら、私の将来を案じ、私に対して申し訳ないと感じている部分もあると、手に取るように伝わって来ます。

改めて福祉って……と考えると私は渦の中にいるのか外にいるのか分からなくなってきました。

誰もが人間らしく暮らせるように。私も、そして両親も。

私にしか出来ないことがあるかもしれない、誰かの役に立てるかもしれない。

私は「きょうだい児」という立場から、目線から、考え、調べ、未来の福祉を何らかの形で支えていけたら、と思っています。